

## 5. 広報・アウトリーチ活動

### 5-1. グローバル COE 発足記念フォーラム

平成 20 年 12 月 1 日に、本 COE プログラムのスタートの広報活動として、愛媛大学大講堂(グリーンホール)にて標記の記念フォーラムを一般公開で行った。尾池和夫氏(前京都大学総長)の特別講演ならびに拠点リーダーの入船徹男教授によるプログラム概要・メンバー紹介を行い、学内外から約 300 名の参加があった。



### 5-2. ホームページ

本 COE プログラムの概要・実績・イベント内容などの紹介(日本語・英語版)、ならびに、プログラムの目的の一つである TANDEM(2-5 章を参照)の各ホームページを平成 20 年度に開設し公開している。ホームページはほぼ毎月 2 回更新し、特に、セミナー・インターンシップ・人材公募などの情報発信を国内外に向けて行っている。それぞれの URL を以下に記す。

COE 日本語版:

<http://deep-earth-mineralogy.jp/>

COE 英語版:

<http://deep-earth-mineralogy.jp/g-coe2008/english/>

TANDEM(英語版のみ):

<http://deep-earth-mineralogy.jp/tandem/>



### 5-3. パンフレット、ニュースレター

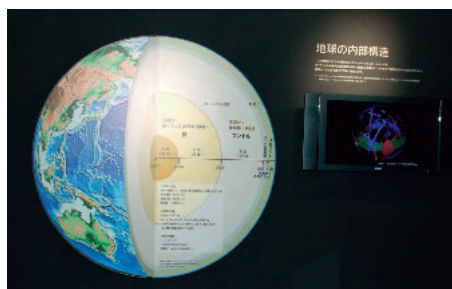
本 COE プログラムの概要・目的などを紹介したパンフレット(日本語)を 3000 部作成し、国内の大学・研究機関などに配布した。

また、活動の定常的報告として、ニュースレターを年 3 回(1、5、9 月)発行し、毎号 2000 部作成して国内のみならず、海外の大学・研究機関などに配布している。このニュースレターは、海外への周知も主目的として英語で作成し、最新研究成果・イベント報告・イベント紹介と参加案内・若手研究者の紹介・TANDEM の活動や参加拠点の紹介を行っている。巻末に現在まで発行の No. 1-5 を添付している。



#### 5-4. 愛媛大学ミュージアムでの常設展示

平成 21 年 11 月 14 日に愛媛大学キャンパス内に新設された「愛媛大学ミュージアム」の一般公開が始まり、複数の常設展示ゾーンに分かれたミュージアムの一部が「地球深部」コーナーになっている。地球深部ダイナミクス研究センターならびに COE プログラムの教育・研究活動成果などを展示している。実物展示として、GRC で合成した「ヒメダイヤ」や ringwoodite の顕微鏡観察、マルチアンビル型高圧合成装置・ダイヤモンドアンビルセルの縮小模型を配置している。GRC のダイナミクスグループが作成した球殻 3 次元マントル対流シミュレーションの動画を大型液晶モニターにて放映している。また、地球深部研究の概略、GRC の機器・装置群、COE プログラムの紹介、各研究グループの紹介と最新研究成果をポスター展示している。



#### 5-5. 学会などでのブース展示

他大学の学生や関連研究者への COE プログラム活動の広報宣伝活動として、多くの参加者が集まる主要学会においてブース展示を行っている。この間に展示を行った学会は、1) 日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2009 年大会 (平成 21 年 5 月 23 日 - 28 日、千葉県幕張メッセ)、参加者約 4800 名、2) 日本高圧力学会及び国際高圧力科学技術連合 (Joint AIRAPT22 & HPCJ-50) (平成 21 年 7 月 26 日 - 31 日、東京都お台場)、参加者約 500 名、の 2 つである。前者は日本の 46 の地球惑星科学関連の学協会が共同で毎年開催するもので、近年は国際セッションも開催されるようになったこともあり外国からの参加者も増加しているためにアピール度が高い。平成 22 年度以降の大会にも展示を予定している。後者は、2 年に一度開催される高圧科学に関する国際会議である AIRAPT と日本高圧力学会の共催であり、高圧科学ならびにその関連分野の研究者が世界各国から多数参加し、当プログラムをグローバルに宣伝する絶好の機会であった。

両学会とも、COE プログラムの紹介ポスター、ヒメダイヤの実物展示、大型ディスプレイによる GRC と COE の紹介スライドの展示を行った。他大学の学生や高校生などが多数立ち寄り下り、若手の方々への宣伝・周知の場として大変効果的であった。

また、その他の催しでのブース展示として、1) 平成 20 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」(平成 21 年 1 月 12-13 日、横浜市パシフィコ横浜、主催: 文部科学省、(財) 文教協会)、2) 「日中大学フェア&フォーラム」(平成



22年1月29-30日、東京国際フォーラム、主催:(独)科学技術振興機構中国総合研究センター、(独)日本学術振興会)、の2か所においてもCOEプログラムの紹介展示を行った。

## 5-6. 新聞記事などによる報道

- 平成20年6月19日 愛媛新聞 『地球深部の物質研究 高評価 愛媛大2件目COE「グローバル」文科省採択5年間重点資金配分』 小松正幸学長、地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成20年6月19日 日本経済新聞 『文科省の支援策「COE」愛媛大の研究を採択「地球深部物質」対象に』 地球深部ダイナミクス研究センター
- 平成20年6月19日 毎日新聞 『地球深部の構造解明へ 愛媛大COE採択2年連続』 小松正幸学長、地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成20年6月19日 朝日新聞 『愛媛大、COEに採択2年連続 地球深部の物質研究』 小松正幸学長、地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成20年6月22日 愛媛新聞 『愛媛大研究 世界レベル 沿岸環境・地球深部・無細胞タンパク3センター国も支援』 小松正幸学長
- 平成20年6月28日 日本経済新聞 『人材育成も責務』 小松正幸学長
- 平成20年9月19日 科学新聞 特集・愛媛大学グローバルCOEプログラム 先進的実験と理論による地球深部物質学拠点 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成20年10月10日 代々木ゼミナール 代ゼミジャーナル(573号、2008 No. 5) 研究室探訪 テーマ 高圧地球科学 『愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター超高压実験分野 入船研究室』 愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成20年11月23日 愛媛新聞 『地球深部研究国際連携探る きょうから愛媛大でシンポジアの研究者ら集う』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成20年12月2日 愛媛新聞 『地震知って備えを 愛媛大COEフォーラム 前京大総長が講演』 地球深部ダイナミクス研究センター
- 平成20年12月9日 愛媛新聞 『愛媛大チーム地球深部の謎解明 鉱物組成や地震波伝達の仕組み先駆け理論化』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋旬上級研究員、土屋卓久准教授
- 平成20年12月9日 毎日新聞 世界初、計算で組成示す 愛媛大の研究者夫妻 地球マントルの最下部層地球深部ダイナミクス研究センター 土屋旬上級研究員、土屋卓久准教授
- 平成20年12月9日 産経新聞 『マントル研究 米科学誌掲載 愛媛大学土屋上級研究員ら 新たな計算法を開発』地球深部ダイナミクス研究センター 土屋旬上級研究員・土屋卓久准教授
- 平成20年12月9日 読売新聞 『地球深部の物質変化解析 愛大准教授ら、米科学冊子に発表』地球深部ダイナミクス研究センター 土屋旬上級研究員、土屋卓久准教授
- 平成20年12月10日 毎日新聞 『地震の仕組み 学んで備えを 愛媛大で講演』 愛媛大学
- 平成20年12月22日 朝日新聞 『マントル・外核の境 結晶構造変化 愛媛大が確認』地球深部ダイナミクス研究センター 土屋旬上級研究員、土屋卓久准教授
- 平成21年3月31日 愛媛新聞 『地球最深部の気圧に迫れ 愛媛大ダイナミクス研究センター』地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成21年3月31日 日本経済新聞 『総合研究棟Iの増築完了 愛媛大』理学部
- 平成21年4月1日 毎日新聞 『地球深部の状態再現 愛媛大6000トン発生、超高压装置 理学部』地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成21年4月2日 毎日新聞 『「坊っちゃん」地球の謎を解く 愛媛大6000トンのパワーでギョッ』 地球深部ダイナミクス研究センター長 入船徹男教授
- 平成21年4月7日 朝日新聞 『平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋卓久准教授

- 平成 21 年 4 月 9 日 産経新聞 『愛媛大に世界最大の超高压装置導入』 地球深部ダイナミクス研究センター
- 平成 21 年 8 月 4 日 毎日新聞 『200 万気圧も測定可能 「EHIME スケール」開発 愛媛大』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授、土屋卓久教授、丹下慶範助教
- 平成 21 年 8 月 4 日 愛媛新聞 『超高压での測定式開発』 地球深部ダイナミクス研究センター入船徹男教授、土屋卓久教授、丹下慶範助教
- 平成 21 年 10 月 21 日 日刊工業新聞 「赤外吸収測定実験で強誘電体の氷の識別方法を確立-宇宙進化の謎解明に前進-」 東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設 鍵裕之准教授
- 平成 21 年 10 月 21 日 日経産業新聞 「赤外吸収測定実験で強誘電体の氷の識別方法を確立-宇宙進化の謎解明に前進-」 東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設 鍵裕之准教授
- 平成 21 年 10 月 30 日 科学新聞 『赤外吸収測定実験で強誘電体の氷の識別方法を確立-宇宙進化の謎解明に前進-』 東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設 鍵裕之准教授
- 平成 21 年 11 月 SPring-8 ニュース(No. 47, 2009. 11) 『平成 21 年度日本高压力学会賞を愛媛大学入船センター長が受賞しました』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- (同上)『国際高压力科学技術協会 Jamieson 賞を愛媛大学の桑山助教が受賞しました』地球深部ダイナミクス研究センター 桑山靖弘助教
- 平成 21 年 11 月 30 日 日刊工業新聞 「地域に根差し先端をゆく 世界にらむ研究拠点 トップ 6 氏のメッセージ さらなる深部に迫る」 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男センター長
- 平成 21 年 12 月 1 日 愛媛新聞 『事業仕分け後半戦 県内反応 科学技術 削減に反発 研究者 水準低下憂う 「ビジョン示さず無責任」』 愛媛大学田辺信介教授・入船徹男教授・遠藤弥重太教授
- 平成 21 年 12 月 4 日 愛媛新聞 『地球深部の謎に迫る 下部マントル一部解明 愛媛大発表 上部と同様鉱物で構成』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成 21 年 12 月 4 日 毎日新聞 『下部のマントルもかんらん岩の一種 愛媛大など発表』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成 21 年 12 月 4 日 朝日新聞 『下部マントルもパイロライトか 愛媛大が研究成果』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成 21 年 12 月 4 日 日本経済新聞 『下部マントル組成解明 愛媛大など 地球形成探る手掛かり』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成 21 年 12 月 6 日 産経新聞 『マントル下部を特定 愛媛大、米科学誌に掲載』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成 21 年 12 月 8 日 愛媛新聞 『マントル・核 境界 3500 度 地球構造解明へ前進 愛媛大が発表』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋卓久教授
- 平成 21 年 12 月 8 日 産経新聞 『マントル最深部の温度 「3500 度に決定」 愛媛大学土屋教授発表』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋卓久教授
- 平成 21 年 12 月 8 日 朝日新聞 『マントルと外核の境界は 3500℃ 前後』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋卓久教授
- 平成 21 年 12 月 8 日 毎日新聞 『地球のマントルと外核の境界 温度は 3300~3700 度 愛媛大の土屋教授ら解明』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋卓久教授
- 平成 22 年 1 月 30 日 愛媛新聞 『地球構造 解明に意欲 阪神大震災の惨状 原点』 地球深部ダイナミクス研究センター 土屋卓久教授
- 平成 22 年 2 月 15 日 愛媛新聞 『「グローバル COE」予算大幅削減 愛媛大の“顔”波紋広がる 積立金で補充 窮余の策』 柳澤康信学長、地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授
- 平成 22 年 4 月 17 日 愛媛新聞 『高温高压の内部再現 ヒメダイヤモンド 偶然の産物』 地球深部ダイナミクス研究センター 入船徹男教授